

6学年2組 国語科学習指導案

児童 男子13名 女子14名 計27名
 指導者 田浦 生弥

- 1 単元名 賢治の世界を味わい、作品を紹介しよう
 学習材 「やまなし」 宮沢 賢治 (光村図書6年)
 資料 「イーハトーヴの夢」 畑山 博 (光村図書6年)

《付けたい力》

- 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。(読イ)
- ◎ 登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。(読工)
- 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。(読オ)

宮沢賢治のものの見方や考え方がよくわかる作品を選び、それを紹介するリーフレットを作る。

2 単元について

(1) 児童について

児童は、「C読むこと」の指導事項エとオの力を付けることをねらった単元としては、「カレーライス」で登場人物の相互関係や心情をとらえたりする学習を経験した。また、作品の叙述と自分の考えを関連付けて交流する活動を経験してきている。

今までの学習を通して、児童は、文章を読んで理解したことを基に自分の考えを持つことができるようになってきている。そして、自分の考えを伝え合うことに楽しさを感じる児童も増えてきている。しかし、叙述に即して具体的に想像する力や自分の考えを広げたり深めたりまとめたりする力について個人差がある。多くの友達の考えに触れることを通して、物語の世界を具体的に描いたり、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにしていきたい。

(2) 学習材について

学習材である「やまなし」は、いくつかの場面を比較して読んだり、作品中に登場する様々な表現から情景や心情を捉える力を身に付けたりするのに適した構成、内容の作品であると考え。さらに資料「イーハトーヴの夢」で紹介される賢治のものの見方や考え方を重ね合わせることで、より深い読み味わいができ、宮沢賢治が書いた他の作品への興味も深まるものと考え。

(3) 指導について (研究内容との関わり)

① 必要感をもって追及できる課題の設定

第一次で、「宮沢賢治のものの見方や考え方がよくわかる作品を選び、それを紹介するリーフレットを作る」という単元のゴールを明確に示し、その目的や学習計画、学習課題を話し合うことで、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるようにする。そうすることで、「やまなし」を読む学習にも必要感をもって取り組むことができると考える。

② 自分の考えを思わず話したくなる対話の工夫

「やまなし」を学習するときには、グループで教科書の叙述に基づいて、対話をしながら5月と12月の世界を絵に表す活動を行う。2つの場面について本文を使いながら、主体的にイメージを膨らませて理解を深めていけるようにしたい。

③ 学びの課程はどうだったのかを自覚できる手立て

学習計画と単位時間ごとの振り返りを一枚の学習プリントにまとめ、自分の学習の足跡を見返すことができるようにする。

3 単元の指導目標

- 賢治の生き方や考え方について、自分の考えを明確にしなが賢治の作品を読もうとしたり、進んで自分の考えを広げたり深めたりしようとする。 【関心・意欲・態度】
- ◎ 目的に応じて、二つの場面を比べて読むことができる。 【読むこと】
- ◎ 作品の情景描写を叙述に即して伝え合い、想像を広げながら読むことができる。 【読むこと】
- ◎ 作品を読んで考えたことを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 【読むこと】
- 比喩的な表現を手がかりにして、情景を想像することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを明確にしなが賢治の作品を読もうとしたり、進んで自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて、二つの場面を比べて読んでいる。(読イ) ・ 作品の情景描写を叙述に即して伝え合い想像を広げながら読んでいる。(読エ) ・ 作品を読んで考えたことを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(読オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比喩的な表現を手がかりにして、情景を想像している。(言イケ)

5 単元の指導計画・評価規準 (全10時間)

次	学 習 活 動	○主な指導上の留意点 ◆評価規準 <評価方法>
一	① 「やまなし」の全文を読み初発の感想をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 宮沢賢治について知っていること出し合う。 ・ 学習材「やまなし」を全文音読し、初発の感想を書いて交流する。 ・ 物語の構成などについて確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二枚の幻灯という、作品の構成を意識させるようにする。 ◆ 初発の感想を書き、友達の感想と比較しながら交流している。 【読オ】 <ノート>
	② 初発の感想を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 追及していくことや、そのために必要なことを明らかにしながら学習課題や学習計画を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「宮沢賢治のものの見方や考え方がよくわかる作品を紹介するリーフレットを作る」という目的を明示し、平行読書等に意欲的に取り組めるように計画を立てる。 ◆ 学習課題や学習計画を考え、単元の見通しをもっている。 【関・意・態】 <発言>
	③ 「イーハトーヴの夢」を読み、賢治のものの見方や考え方について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 賢治のものの見方や考え方の基になった出来事、作品が誕生した背景などを年表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年表や成長の節目に沿って、賢治の言葉や行動などを整理させる。 ◆ 賢治のものの見方や考え方に興味をもっている。 【関・意・態】 <発言・ノート>
二	④ 「五月」の谷川の情景を読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 谷川の様子(水や光の様子)、かこの会話や様子、出来事(上から来たもの)の3つの観点に沿って話し合い、絵に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 擬声語や擬態語、比喩表現に着目させながら情景を捉えさせるようにする。 ◆ 擬声語や擬態語、比喩表現などに着目し、その役割や効果に気付き、情景を読み取っている。 【読エ 言(イ)ケ】 <発言・ノート>

<p>⑤ 「十二月」の谷川の情景を読み取る。〈本時〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時と同じ3つの視点に沿って、「五月」の谷川の情景と対比しながら話し合い、絵に表す。 ・ 「五月」のかわせみが出現したときの様子と、「十二月」のやまなしが落ちてきたときの様子に着目し、違いを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 擬声語や擬態語、比喩表現に着目して情景を捉えさせるようにする。 ○ 「五月」と「十二月」を対比させて、違いに気付くようにする。 ◆ 擬声語や擬態語、比喩表現などに着目し、その役割や効果に気づき、「五月」と対比しながら情景を読み取っている。 <p>【読エ・イ言(イ)ケ】〈発言・学習シート〉</p>
<p>⑥ なぜ題名が「やまなし」なのかを話し合い、作品に込められた作者の思いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「五月」のかわせみ、「十二月」のやまなしが、それぞれかこの親子にもたらしたものを話し合う。 ・ 「イーハトーヴの夢」から読み取った賢治のものの見方や考え方を参考に、「やまなし」に込められた作者の思いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 題名を「やまなし」にした意図と、賢治のものの見方や考え方を照らし合わせ、作品に込められた作者の思いを捉えることができるようにする。 ◆ 学習を通して深まった作品や作者への理解を基に、「やまなし」に表れている作者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えをまとめている。 <p>【読エ】〈学習シート〉</p>
<p>⑦ 「やまなし」を紹介する文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時でまとめた自分の考えを基にして、「やまなし」を紹介するための文章を書く。 ・ <第1段落>物語のあらすじ ・ <第2段落>作品に表れていると感じた宮沢賢治のものの見方や考え方と、その根拠となった内容や文章 ・ <第3段落>読むことをすすめるコメント 	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらすじのまとめ方や、本文からの文章の引用など、読み手にわかりやすく伝えるための工夫を意識させながら、文章を書くことができるようにする。 ◆ 作者のものの見方や考え方がどのように作品に表れているか、根拠を明らかにしてまとめている。 <p>【読エ】〈学習シート〉</p>
<p>⑧ 前時に書いた文章を交流し、自分の考えを広げたり深めたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに発表、意見交流を行う。 ・ 交流して広がったり深まったりした考えを、第2段落と第3段落の間に書き加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共通点のある児童同士をグループにし、広がりや深まりのある交流ができるようにする。 ◆ 作品から読み取った作者のものの見方や考え方を交流し、自分の考えを広げたり深めたりしている。 <p>【読オ】〈学習シート〉</p>
<p>三 ⑨ 自分が選んだ宮沢賢治の作品を紹介する文章を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「やまなし」を紹介する文章と同じ3段落構成で文章をまとめる。 ・ 書いた文章を、同じ作品を選んだ人同士で発表し合い、意見交流を行う。 ・ 交流して広がったり深まったりした考えを、第2段落と第3段落の間に書き加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 並行読書してきた賢治の作品の中から、「宮沢賢治のものの見方や考え方がよくわかる作品」を一つ選ばせ、⑦⑧で書いた文章を参考にさせながら、自分の考えをまとめることができるようにする。 ◆ 作品から読み取った作者のものの見方や考え方を交流し、自分の考えを広げたり深めたりしている。 <p>【読オ】〈学習シート〉</p>
<p>⑩ 前時に書いた文章を使ってリーフレットを作り、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リーフレット用の用紙に配置を考えて清書をし、完成したものを交流し合う。 ・ 単元の学習について振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挿絵や見出しなど、読み手に興味をもってもらえるような工夫を加えさせながらリーフレットを作成させる。 ○ 単元の学習全体を振り返り、より深い読みができたことを自覚できるようにする。 ◆ いろいろな作品から読み取った作者のものの見方や考え方を交流し、自分の考えを広げたり深めたりしている。 <p>【読オ】〈リーフレット・学習シート〉</p>

6 本時の指導

(1) 目標

「五月」と「十二月」を比べて読み、それぞれの場面について理解を深めることができる。【読イ】

(2) 展開

学習活動	・指導上の留意点 ◆評価 <評価方法>
1 学習計画を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画を基に、単元における本時の位置付けを確認する。
2 本時の学習課題をつかむ。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 「五月」と比べながら、「十二月」の様子を、絵に表そう。 </div>	
3 学習の見通しを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時で「五月」を絵に表したことを振り返り、本時も同じように学習を進めていくことを確認する。
4 学習課題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> 一人ずつ教科書の本文を読み、情景描写を表す文を見つけてからグループで活動することで、全員が活動に参加できるようにする。 なぜそのような絵になったのか、理由をもって「十二月」の場面を一枚の絵に表せるよう声かけをする。 「五月」の絵と比べながら、違いを見つけられるようにする。 グループごとに作成した絵について説明をし、共通理解を図る。 前時で描いた絵と本時で描いた絵を比べ、「五月」は暗く悲しい場面で、「十二月」は明るく楽しい場面であることに気付けるようにする。 「対比」について説明をする。 絵の印象だけでなく、叙述のどんなところから様子を理解したか、記述できるようにする。
(1) 情景描写を表す文を見つけ、線を引く。	
(2) グループで叙述をもとに絵を描く。	
(3) 全体で交流する。	
(4) 「五月」と「十二月」を比べ、それぞれの場面で表現されていることについて考える。	
(5) 対比したことで、「五月」と「十二月」の様子がどう理解できたか、自分の考えを書く。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ◆ 「五月」と「十二月」を比べて読み、それぞれの場面について理解を深めることができる。 【読イ】 <発言・学習シート> </div>
5 本時学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習プロセスについて振り返り、自分の学びを自覚することができるようにする。
6 次時の学習を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、「イーハトーブの夢」で学習した、賢治の生き方や考え方と「やまなし」とのつながりを考えることを確認し、意欲付けを図る。

(3) 評価

評価規準 <評価方法>	◆ 「五月」と「十二月」を比べて読み、それぞれの場面について理解を深めることができる。 【読イ】 <発言・学習シート>
記述例	<ul style="list-style-type: none"> 対比をすることで、「五月」を最初は明るい世界だと思ったけれど、「十二月」が本当は明るい世界を表現していることがわかった。特に、かにの子どもたちの行動から「五月」は怖がっていること、「十二月」は楽しんでいることがわかった。 「五月」は「黒い」や「暗い」と書いてあるから怖い世界を表していて、「十二月」は「きらきら」や「月光のにじ」と書いてあるから、穏やかな楽しい世界を表していることがわかった。 (対比をすることで、場面の様子を理解している。)

